

令和元年第3回定例会 文書質問
鈴木 あきら 議員

回 答 書

1 都立中川公園防災拠点・防災公園化について	
質問の要旨 ①	(1) 私たち会派は、この都立中川公園を「地震・風水害などあらゆる災害時に対応可能な防災拠点・防災公園として、整備必要な施設を規模も含めて区が責任をもって計画を立てるべき」と言い続けているが、区は都立公園だからということか防災拠点の構想すら未だに出そうとしない。防災拠点・防災公園の施設整備計画は、東京都、足立区、どちらの責任で出すべきものなのか。
回 答 ①	防災拠点・防災公園の施設整備計画は、東京都が計画・施工すべきものと考えております。 なお、中川公園の施設整備につきましては、平成29年12月に中川公園整備検討協議会及び、足立区の連名で東京都へ要望書を提出しております。 現在のところ東京都から回答はいただいておりますが、引き続き中川公園整備検討協議会のみなさまと検討を深め、その検討内容につきましては、東京都へ要望してまいります。 (担当所管：危機管理部 災害対策課)
質問の要旨 ②	(2) どちらの責任であろうと、防災拠点・防災公園の施設整備計画は、地震・水害・風害など自然災害の多発で不安が増している今こそ、地域住民や中川公園整備検討協議会などの意見を十分に聞きながら、重要な防災拠点となるよう早急に進めるべきである。前回の区議会定例会で、私は「計画を作成する際には、専門家・大学教授の意見提案や監修などを活用すべき」と質問したが、区の回答は「足立区総合アドバイザーなどの意見を聞きながら、防災活動の中心拠点としての機能について検討していく」であった。専門家・大学教授の活用の検討結果と、防災拠点化計画の今後のスケジュールを示すよう求めたい。私たち会派は「防災拠点の施設整備は都下水道局施設覆蓋化の荷重に関係するので、覆蓋は防災拠点の施設整備の

	計画を決めてから進めるべき」と言っていたが、都下水道局は基本設計を開始してしまった。このままでは、覆蓋化上部の荷重が1㎡あたり3tまでと制限されてしまうが、区はそれ以上の荷重となる施設整備は防災拠点として不要と判断しているのか。
回 答 ②	まず、専門家・大学教授の活用の検討結果と、防災拠点化計画の今後のスケジュールを示すことについてお答えします。 中川公園の防災活動について、足立区総合防災行政アドバイザーとまだ具体的な打合せを行なっておりません。早急にご意見をうかがい、協議会の場で、ご提示させていただきたいと考えております。 次に、覆蓋化上部の荷重が1㎡あたり3t以上となる施設整備は防災拠点として不要と判断しているのか、についてお答えします。 東京都が行なっている覆蓋化の基本設計委託では、覆蓋化上部で耐える荷重は1㎡あたり3tで進めていると聞いております。中川公園整備検討協議会の中で検討された施設や整備には、3t以上の荷重を必要とするものは含まれておりません。 また、防災活動の中心拠点として「災害時に、救出救助の場として利用可能な整備」「災害時の高台避難所として利用可能な整備」「災害備蓄倉庫のスペースの確保」「災害時における、園路照明の確保」「防災トイレとして活用可能な施設の増設」の5点の整備を例示して要望しております。これらに付随する緊急車両や荷物運搬用車両については、1㎡あたり3tを超えないものと想定しており、災害備蓄倉庫についても1㎡あたり3tを超えることのないよう整備してまいりますので、1㎡あたり3tを超える荷重となる施設整備は、現在のところ防災拠点として必要ないと判断しております。 (担当所管：危機管理部 災害対策課)
質問の要旨 ③	(3) 前回定例会で区は「上部公園に設置が可能な防災施設の種類などを具体的に例示した上で、地元の了解もいただいている」と回答した。しかし、備蓄倉庫や災害時対応型のトイレなどの種類の例示はあったが、各施設の規模などはもちろん荒天時や強い日照時対策はどうかなど、詳細を説明したわけではない。したがって、具体的な詳細説明をしてしない部分については、当然ながら地元の了解は得られていない。具体的な施設整備の規模など詳細を示さないまま、計画を進めてよいというものではないはずだが、区の認識を問う。
回 答 ③	中川公園整備検討協議会で提出した整備要望書には、公園が目指すべき将来像と基本理念や整備項目を記載しております。しかしながらご質問の

	通り、防災拠点施設の具体的な内容は未だお示ししておりません。 今後、区において防災拠点施設の案を作成し、中川公園整備検討協議会においてご説明を行ってまいります。その後ご了解いただいた案を持って、可能な限り設計に反映されるよう都と協議を進めてまいります。 (担当所管：都市建設部 企画調整課)
質問の要旨 ④	(4) 防災の専門家や大学教授などから意見や指摘されたりなどで、地域住民や中川公園整備検討協議会が、今後覆蓋化の荷重 1 m²あたり 3 t を超える施設整備を要求・条件に追加した場合、区は都に求めたり要求に応えるのか、それとも要求は拒否するつもりか。
回 答 ④	中川公園整備検討協議会から、覆蓋化の上部の耐えうる荷重 1 m²あたり 3 t を超える施設整備の要望が新たに出されれば、区は東京都へ伝えます。 (担当所管：都市建設部 企画調整課)
質問の要旨 ⑤	(5) この防災拠点化計画を進める上で、区は都市建設部が所管としてリードするのではなく、危機管理部が前面に立ちリードし、防災拠点整備の本気度を示しながら責任をもって進めるべきと思うがどうか。
回 答 ⑤	危機管理部がリードし、防災拠点整備を進めるべきというご意見についてお答えいたします。 防災活動の中心拠点としての整備について、今後は、危機管理部がリードしながら、事務局の都市建設部と連携して進めてまいります。 (担当所管：危機管理部 災害対策課)

2 江北給水所上部利用について	
質問の要旨 ①	(1) 東京都水道局の江北給水所が完成して7か月が経過した。広大な配水池の上部を覆蓋化し、1㎡あたり5tまでの荷重に耐えられるものである。しかし、いまだに利用計画は何も決まっていない。足立区は、江北給水所上部のこの広大な場所をどのように活用しようと考えているのか。
回 答 ①	江北給水所上部のこの広大な場所をどのように活用しようと考えているかというご質問にお答えします。 区としては、隣接する高野小学校跡地に整備予定の多目的広場と連携した施設整備が行えるよう東京都水道局に依頼しております。 (担当所管：政策経営部 経営戦略推進担当課)
質問の要旨 ②	(2) 江北エリアデザインとして、当然一体的に組み込んでいると思うが、コンセプトなどはあるのか。また、地域要望などは寄せられているのか。あるとすればどのようなものか。
回 答 ②	上部利用のコンセプトなどはあるのかとのご質問にお答えします。 江北エリアデザイン計画では「健康」をテーマにしたまちづくりを推進しており、上部利用のコンセプトとしましては、高野小学校跡地における「健康づくりやスポーツが楽しめる多目的広場」と機能的に連携した活用を想定しております。 地域要望としましては、平成30年に足立区サッカー協会から江北給水所上部と高野小学校跡地を一体化し、多目的広場・少年サッカー場として整備してもらいたいとの要望を受けております。 (担当所管：政策経営部 経営戦略推進担当課)
質問の要旨 ③	(3) 平成18年から整備をしていた場所だが、区としては都と何年前から検討・協議していたのか。いまだに利用計画が何も決まっていない主な原因は何か。
回 答 ③	東京都水道局と何年前から協議・検討していたのかとのご質問にお答えいたします。 東京都水道局とは、平成28年から協議を行ってまいりました。 いまだに利用計画が決まっていない主な原因ですが、東京都水道局としては、高野小学校跡地の活用が可能となる時期に合わせた活用開始を想定しており、現在、区のコンセプトに配慮した活用検討を行っていると同っております。 (担当所管：政策経営部 経営戦略推進担当課)

質問の要旨 ④	(4) 私が今年 3 月の予算特別委員会で、この給水所上部の 1 m²あたりの荷重がどれだけあるか質問したが、答える者はいなかった。区が荷重を認識したのはいつの段階か。また、都水道局から荷重について正式な文書報告はいつあったのか。
回 答 ④	荷重を認識したのはいつかのご質問についてお答えします。 荷重につきましては、今年の 3 月の予算特別委員会の質問をうかがい、初めて認識し、予算特別委員会の後に東京都水道局に口答による確認をしました。なお、東京都水道局には、正式な文書による回答を求めておりませんでしたので、あらためて正式な文書回答を要望してまいります。 (担当所管：政策経営部 経営戦略推進担当課)
質問の要旨 ⑤	(5) 1 m²あたり 5 t までの荷重に耐えられるのであれば、具体的にはどのようなものまで可能と考えているか。
回 答 ⑤	1 m²あたり 5 t までの荷重に耐えられるのであれば、具体的にはどのようなものまで可能と考えているかのご質問にお答えします。 1 m²あたり 5 t までの耐荷重とは、概算で木造 3 階建ての住宅を建てることができますが、区としましては、給水所上部には健康づくりやスポーツが楽しめる「多目的広場」と連携した活用を想定しており、荷重がかかる様な建築物の整備などは想定しておりません。 (担当所管：政策経営部 経営戦略推進担当課)